



春うらら いい気分の一日を

撮影場所：中央公民館前の広場

令和5年春季号 発行者／小山 正弘 編集／あきる野市町内会・自治会連合会 広報部会

こんなことをしています

連合会

あきる野市町内会・自治会連合会

会長 小山 正弘

私はあまり得意ではないのですが、世間はデジタル化に向け、突き進んでいます。あきる野市町内会・自治会連合会も様々な検討や実践を進めています。

その1 令和3年度から連合会役員会ではタブレット端末会議を実施しています。中々、操作に慣れない部分がありますが、ペーパーレス化を図っています。

その2 デジタル回覧板について先行実施している青梅市自治会連合会に研修していただきました。デジタル回覧板とは、今、ペーパーで行っている回覧物や配布物を皆さんのスマホに直接送信するという方法です。ただ、当面は紙とデジタルを併用するなど、まだまだ検討する余地があります。でも、前向きにとらえ、検討を重ねていきます。

その3 各地区の町内会長・自治会長による意見交換会で「ー化」をテーマに検討を開始しています。

さて、町内会員・自治会員の皆さん!! 町内会・自治会のデジタル化について、アイデアやご意見をお寄せください。

町内会長・自治会長を

通じてお伝

えください。



あきる野市町内会・自治会連合会研修旅行を行う

青梅市：デジタル回覧板の運用 立川防災会：防災体験研修会

1月24日(火)にあきる野市町内会・自治会の研修会を実施。計36名が参加しての研修会であった。

青梅市では市内の企業が開発したソフトを導入して、自治会向け広報の内容を回覧と合わせてデジタル配信。専用アプリでの配信により自治会員への閲覧を可能にし出先等での閲覧が可能になって、回覧を見る方が少なくなった状況改善のために導入された。ただし閲覧状況の把握が出来なかったり、紙回覧が廃止できないとの問題点も課題。又運用が始まって1年と短いため、暗中模索しているとこの事であった。専用ア

プリでの運用とは言え、各自治会ではソフトの活用が十分とは行かない様である。午後より立川の防災館に行き、参加者は3班に分かれて各地で起きている地震震度の体験や、AEDを利用した救命救急の訓練、家具などの下敷きになった時などを想定した救出救護訓練などを体験した。



髭剃りと靴下(自己紹介)

なぜか、仕事が定年になると「もう面倒な髭剃りをしなくていい」「嫌いな靴下をはかなくていい」「ああしあわせ」と無意識に思い込んでおりました。

なので、定年を迎えると電気カミソリを捨てました。一週間も経つと髭がかなり伸びてきます。私の髭は太いのですが、まばらに生えてきて、かつこよくないのです。ただの無精ひげ。

靴下については、もともと普段から仕事が休みの日はゴムズリ。これは子供が小さいころ川や噴水を見るとすぐ入ってしまうのを追いかけるのに都合がいいからでしたが、ゴムズリは靴下を履かなくていい。定年後、ゴムズリで過ごすことにして、スニーカーを捨てました。

電気カミソリはしばらくして再び買いました。

連合会長 小山 正弘

郷土芸能は 地域社会をつなぐ場

コロナ過の終息の足掛け4年間を振り返ると、私たちは感染防止に対応するために影響を受け、様々な生活様式まで変えてしまったように思う。

コロナ過3年目の昨年、皆さんの地域の行事やお祭りは無事に行われたでしょうか。

この4年間という月日は、長年続けられてきた祭りや行事の伝統を継承する上での「岐路」に立たされるほど大きな影響を及ぼしたと、思うのは私だけであらうか。

行動制限がない中、開催するかどうか、規模はどうするのかなど、地域の感染状況を踏まえた判断を迫られた町内会や自治会が多かったと思う。

あきる野市の伝統芸能である囃子、獅子舞、棒使い、神楽、歌舞伎の活動のほとんどは中止をしたと聞く。十分な感染予防対策が難しく、活動自体の感染リスクが高く不安で、開催意欲の低下の声のために、練習や祭りの中止や縮小に追い込まれていった団体が多かった。

さらに、少子化が進んでいる今、祭りが3年間も中止となれば、胸が高鳴り心躍る祭りの楽しさを味わっていない子どもたちの心を元のように育てるには大変な努力と年月がかかるが、ぜひ実現したい。

郷土芸能や伝統行事の長年の課題の一つに、少子高齢化による後継者不足があげられている。

解決するためには、全市民の理解と協力、参加、支援が必要である。

郷土芸能は、地域の人々の長年にわたる営みを今に伝える文化財として貴重なだけでなく、地域社会をつなぐ場としても大きな役割を果たしてきている。

今年こそは元の姿で続けていってほしいと願わずにはいられない。

中村自治会長 宮崎 慶一

防災訓練開催される

一増戸地区防災・安心地域委員会

さる、2月18日(土) 増戸小学校体育館並びに体育館周辺において、増戸地区防災委員、女性部部員、計42名が参加して避難所開設訓練を実施しました。



建物の周囲の安全確認

指定避難所となっている、増戸小学校体育館がまず安全であるかの確認と外壁など割れや落下の危険はないかを確認した後、体育館内での訓練となった。



避難者用テントの設営

あきる野市から各避難所に設置されている「避難所開設キット」での訓練を実施。保管庫の開錠から始まり、受付設営、発熱感染者への誘導など、14自治会が分担。4班に分けて、準備された装備品を利用して行った。避難所に準備されているテントなどは、グラスファイバーの反発力で開くのは容易に出来た。いざ畳もうとすると皆が手こずりなかなかの難物。うまく収まった時には、周辺から歓喜のどよめきが上がり拍手が出るほどであった。各班より出された、多くの意見が訓練の大切さを身に染みた半日であった。参加された方々は、初めての体験に戸惑いながら、まずは「避難所開設キット」「備品ボックス」を開けてみるのが大事と口にしておりました。

終わりに「防災標語」の表彰が行われた。小学校の部、中学校の部、一般の部と別れた中で、一般の部では38件の応募があり、新宿自治会加藤様が入選された。



防災標語の入選ポスター

野辺町内会防災訓練

野辺町内会 会長 丸山 誠 司

野辺町内会は、関東大震災から100年目となる令和5年1月28日(土)に本年度2回目の防災訓練を行なった。



新型コロナウイルスの感染が拡大している中での開催で、救急搬送が逼迫しているところであったにもかかわらず消防署や消防団、各種団体、一般市民と合わせ約100名が参加した。



参加者からは、緊急地震速報のチャイムがなり起震車の震度6以上の中での避難はとても難しく慌てて机の下に潜るのが精一杯であった。

急遽参加された方の親子は、消防車や起震車の前で記念写真を楽しそうに撮っていたのが印象的で全体では、参加者を班編制にして実施し、特に「起震体験車」の体験は普段では出来ない体験や給水管のセット方法など新しい取り組みが良かった。また、消防署の職員の方がタイムキーパーとなって分刻みのスケジュール管理を行なってスムーズで機敏な体験訓練が出来た。

今後は、「自分の命は自分で守る」という理念に基づき、一人ひとりが災害に対応できる知識や技術を身につけ、近隣との助け合いにより被害を最小限に食い止めていきたい。



初めての門松作りと芋煮会

横沢自治会 会長 森井 申 一

昨年12月18日、自治会館新築一周年行事として初めての「門松作りと芋煮会」を開催しました。

準備は、自治会内から切り出した青々とした新子の孟宗竹、真竹や形の良い枝ぶりを探すのに苦労した松や南天を集めました。



参加者と出来上がった門松



1周年の会館玄関にも門松



個性豊かな笑福門松

芋煮の材料は、ほぼ自治会員の皆さんの畑で採れたての新鮮な大根や長ねぎ、里芋などが提供されました。

当日は、35名の参加があり各々、適当な大きさの植木鉢や丈夫なペール缶を持ち寄りお正月に向けて「笑福門松」を作りました。

「笑福門松」は、竹の節の部分で斜めに切り、笑い顔の様にします。大きさは、持ち寄った鉢や缶に藁を巻き、竹の長さを調整して作りました。各自、初めての経験で苦戦はしましたが個性豊かな門松が出来上がりました。

芋煮についても、会員の奥さんや子供会の協力により、具沢山の美味しい芋煮ができ、ちょっと冷たい風の中、真剣に門松制作した参加者から好評でした。

今年のお正月の玄関先には、賀状配達郵便屋さんもビックリの立派な自作門松が玄関に飾られました。そして門松は成人の日に行われた「どんど焼き」で無病息災を祈念して燃やしました。



芋煮

雨間町内会主催 防災訓練

雨間町内会 会長 森田 勝

雨間町内会では、町内の防災体制の強化を図るため、3月5日に関係団体の33名の方に防災の専門家による防災訓練を実施しました。この専門家は、全国で起きている自然災害で救護活動を実践しているNPO法人全国救護活動研究会等であり、この代表は東京消防庁ハイパーレスキューの隊長を歴任した防災のプロです。



今回の訓練は、災害が発生した状況に即した体験型訓練であり次のとおりです。

- ①防災講習会：自助共助による救助活動、避難活動等の重要性等
- ②防災資材取扱い訓練：非常食、非常用浄水器、災害用トイレ
- ③無線機を使用した救助要請訓練
- ④震災体験訓練：家具転倒挟まれ体験、救出訓練、脱出訓練、仮設トイレ
- ⑤水災体験訓練：土砂流入水防訓練、車両水没体験
- ⑥スタンドパイプ式消火セット放水体験



参加者からは、大変有意義な訓練であり今後広く訓練を継続すべき等の意見が多数あり、今後計画的に防災訓練を推進してまいります。

編集後記

この3年間、コロナ禍の中、自粛、自粛と全ての活動が制限されました。私達の日常に与えた影響は、人々との連携や絆が希薄になった事ではないでしょうか。今年には制限が解除され、さらに3月13日よりマスク着用から解放され自治会活動がより一層活発になることを期待したいと思います。

51号では特集として各地区の防災訓練を取り纏め掲載しました。普段では出来ない「起震体験車」「震災体験訓練」「水災体験訓練」など一人一人の体験を通して防災意識の大切さを認識したと思います。

また、近隣の連携による被害を最小限に食い止める事を学んだと思います。次回も、今まで記事に掲載してない地区の自治会活動をお願いします。

広報部会
荒井 実